

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1 . 概 況

県内の景気は、厳しい状況が続いているが、製造業を中心に持ち直している。

最終需要の動向をみると、住宅投資は低調に推移しており、個人消費は一部に政策効果がみられるものの、全体では弱い状況が続いている。一方、公共投資は前年を上回ったほか、設備投資は加工業種に持ち直しの動きがみられている。

この間、生産はゆるやかに持ち直してきており、雇用情勢は厳しい状況が続いているが、改善に向けた動きがみられている。

2 . 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、一部に政策効果がみられるものの、全体では弱い状況が続いている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高をみると、4月は気温が低く推移したため春物・初夏物衣料の動きが鈍く、前年を下回る動きとなっている。もっとも、身回品や雑貨で値ごろ感のある商品を中心に持ち直しの動きがみられるほか、GW期間中は花見客の増加などから前年を上回る先もみられるなど、下げ止まりの兆しが窺われる。一方、スーパーでは、野菜価格の高騰から食料品の売り上げはほぼ前年並みとなっているが、衣料品など他の商品の売上げが落ち込んでおり、前年を下回って推移している。

(家電量販店売上高)

家電販売は、エコポイント効果により薄型テレビや冷蔵庫が好調に推移していることから、全体でも前年を上回って推移している。

(新車登録台数)

4月の新車登録台数は、乗用車が引続き好調なうえ、貨物車も前年を上回ったことから、全体では前年を2割方上回った。

(2) 公共投資

4月の公共工事請負金額は、国からの大型工事の発注があったことなどから、5カ月ぶりに前年を上回った。

(3) 住宅投資

3月の新設住宅着工戸数は、持ち家が3カ月連続して前年を上回ったものの、貸家が低調に推移しており、14カ月連続の前年割れ。

(4) 設備投資

2010年度の設備投資計画(3月短観調査結果*)は、受注の持ち直しに伴う収益環境の改善を踏まえ、加工業種に設備の維持・更新投資の再開や新製品の工場新設、設備購入を企図する動きがみられ、前年を大幅に上回る計画となっている。

*10年度計画・前年度比：製造業 45.9%、非製造業 16.6%、全産業 31.6%

3. 生産動向

生産は、ゆるやかに持ち直している。

(電子部品・デバイス)

電子部品・デバイスは、東アジア諸国からの受注増加を背景にゆるやかに持ち直している。

(輸送機械)

完成車は、輸出用車種の販売不振から減産を強化しているが、自動車部品は、国内外の需要の回復から、生産水準を引き上げている。

(一般機械)

半導体製造装置は、東アジア諸国からの受注回復を背景に、急速に持ち直している。建設機械部品も、中国からの受注回復などから持ち直している。工作機械は、国内外からの引き合いが増えており、減産を緩和している。

(その他)

窯業・土石、木材・木製品は、需要の低迷から減産を継続している。食料品は、ほぼ横這いで推移している。鉄鋼は、自動車向けを中心に需要が増えているため、生産水準をやや引き上げている。

4. 雇用・所得の動向

3月の有効求人倍率（季節調整値）は、0.41倍（前月：0.39倍）と3カ月連続して上昇したが、新規求人倍率（同上）は、0.71倍（前月：0.76倍）と低下した。

この間、雇用者所得は、所定外労働時間の増加を映じ一人当たり名目賃金が前年を上回ったことなどから、1年7カ月ぶりに前年を上回った。

5. 企業倒産

4月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数が8件（前月11件、前年同月9件）、負債総額が22億3百万円（前月22億88百万円、前年同月104億49百万円）と、件数、負債総額とも前月と前年同月の水準を下回った。

6. 金融面の動向

預金動向は、個人預金が堅調に推移しているうえ、法人預金も高留まっているため、前年を上回って推移している。

貸出動向は、地方公共団体向けが増加しているものの、住宅ローンが頭打ちとなっているうえ、法人向けも前年割れとなっていることから、前年並みの動きとなっている。この間、貸出金利は、低下している。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） http://www3.boj.or.jp/morioka/
